# Python基礎

資料作成者:小寺 俊希

#### 本講座のカリキュラム



#### データ分析の基礎

- Pythonの基礎
- Pythonライブラリ(Numpy, Pandas, Matplotlib)

#### 機械学習の基礎

- 教師あり学習
- 教師なし学習

#### データ分析の応用

- マーケティングへの応用クラウドでの機械学習

#### 本講義のアウトライン



#### プログラミング入門

- プログラミングとは
- ▶ なぜPythonを使うのか

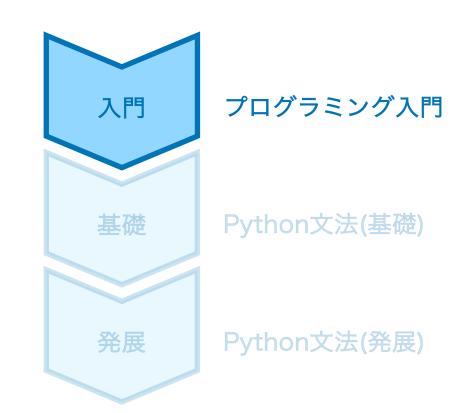
#### Python文法(基礎)

- 演算(算術演算 / 比較演算 / 論理演算)・変数

#### Python文法(発展)

- ▶ クラス▶ モジュール・ライブラリ

プログラミングとは なぜPythonを使うのか



Question:プログラミングとは?

Answer:

コンピュータに対する命令列(=プログラム)を 設計・構築するプロセス

すなわち

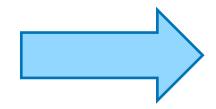
ある計算を行う手順を記述する作業

である

### プログラミング

#### 人間が理解できる言葉

1から10までの整数和を求めたい。 合計値を記憶することにして、 そこに1から10まで順に足せば 解が得られる。



#### 機械が理解できる言葉

Input: s = 0

for n in range(10):

s = s + n + 1

S

Output: 55

**Question**: なぜPythonを使うのか?

Answer:

#### プログラムを簡単に書くことができる

- ▶ コンピュータに関する深い理解を必要としない
- ▶ 「退屈なことはPythonにやらせよう」

#### 便利なツールが豊富に揃っている

▶ データ分析・機械学習のためのツールが多数開発されている

演算 変数 データ型 条件分 は ア 果件分 リ 関数



プログラミング入門

Python文法(基礎)

Python文法(発展)

### 演算

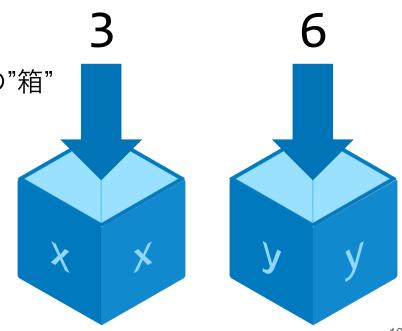
- ▶ 算術演算+, -, \*(積), /(商), //(商), %(剰余)
- ▶ 比較演算>, <, >=, <=, ==, !=</li>
- ➤ 論理演算 and, or, not

### 変数

計算結果を一時的に保存しておくための"箱"

In: 
$$x = 1 + 2$$
  
 $y = x + 3$   
 $y$ 

Out: 6



#### プログラム

- プログラムの実行は上から下へ順に進んでいく
- メモリーが好きなだけ使える 「ちょっと便利な電卓」

# 1から5までの整数和

$$s = 0$$

$$a = 1 + 2$$

$$b = 3 + 4$$

$$c = 5$$

$$s = a + b$$

$$S = C + S$$

### データ型

```
> 整数
             (int型)
▶ 小数
             (float型)
> 真偽値
             (bool型)
                           True / False
> 文字列
             (str型)
> リスト
             (list型)
                           [1, 2, 3, 4, 5]
            (tuple型)
> タプル
                           (1, 2.0, "3")
                           { "a":1, "b":2, "c":3 }
▶ 辞書
             (dict型)
```

# データ型(1) 整数 / int型

#### ▶ 四則演算

In: 2 \* 3

Out: 6

In: 7 // 3

Out: 2

In: 7 % 3

Out: 1

#### > 比較演算

In: 2 < 3
Out: True</pre>

In: 2 == 3
Out: False

In: 2 != 3 Out: True

### データ型(2) 小数 / float型

#### ▶ 四則演算

In: 2.0 \* 3

Out: 6.0

In: 7.0 / 3.0 Out: 2.333333

#### ▶ 比較演算

In: 2.0 < 3

Out: True

In: 0.5 + 0.5 == 1.0

Out: True

In: 0.1 + 0.2 == 0.3

Out: False

### データ型(3) 真偽値 / bool型

#### > 論理演算

In: True and False

Out: False

In: True or False

Out: True

In: not(True)

Out: False

In: not(0)
Out: True

In: not(1)
Out: False

In: 1 and 2

Out: 2

### データ型(4) 文字列 / str型

> 文字列の結合

In: "abc" + "def"

Out: "abcdef"

▶ 部分文字列の検索

In: "abc" in "abcdef"

Out: True

In: "xyz" in "abcdef"

Out: False

# データ型(5) リスト / list型

#### ▶ 要素へのアクセス

```
In: x = [1, 2, 3]
    x[0]
Out: 1
```

Out: [1, 2, 4]

#### > 要素の検索

```
In: 1 in [1, 2, 3]
Out: True
```

In: "1" in [1, 2, 3]

Out: False

# データ型(6) タプル / tuple型

#### ▶ 要素へのアクセス

```
In: x = (1, 2.0, "3")
x[0]
Out: 1
```

#### > 要素の検索

```
In: 1 in (1, 2.0, "3")
Out: True
```

In: 2 in (1, 2.0, "3")

Out: True

### データ型(7)辞書 / dict型

▶ 要素へのアクセス

```
In: x = { "a":1, "b":2, "c":3 }
    x["a"]
Out: 1

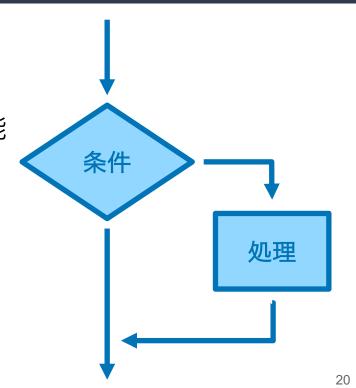
In: x = { "a":1, "b":2, "c":3 }
    x["c"] = 4
    x
Out: { "a":1, "b":2, "c":4 }
```

▶ キーの取得

#### 条件分岐

条件によって処理の流れを変えるための機能

if condition\_a:
 # some procedure A
elif condition\_b:
 # some procedure B
else:
 # some procedure C



### 条件分岐

```
In: x = -1
    if x < 0:
        y = - x
    elif x == 0:
        y = 0
    else:
        y = x
    y</pre>
```

```
Out: 1
```

```
In: x = -1
    if x <= 0:
        if x < 0:
            y = -x
        else:
            y = 0
    else:
            y = x</pre>
```

Out: 1

- インデントを行頭に入れることで ブロックとして認識される
- ➤ elif / else節は省略することができる
- ▶ ネストすることができる

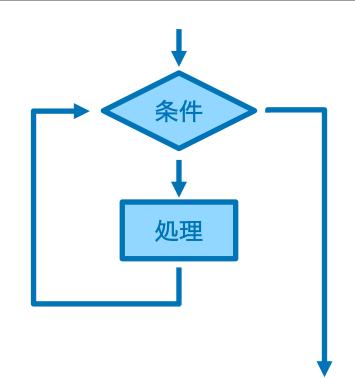
#### ループ

同様の処理を複数回実行するための機能

```
for loop_variable in iterable_object:
    # some procedure
```

while condition:

# some procedure



#### ループ

```
In: s = 0
for n in [1, 2, 3, 4, 5]:
s = s + n
s
Out: 15

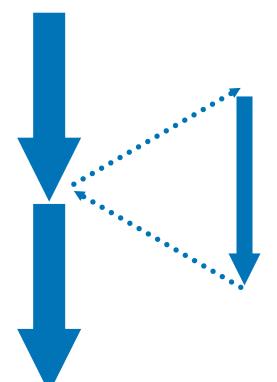
In: s = 0
```

23

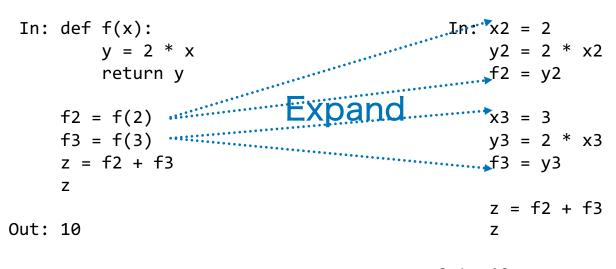
### 関数

処理に名前をつけ、 それを再利用できるようにするための機能

def function\_name(arguments):
 # some procedure



#### 関数



Out: 10

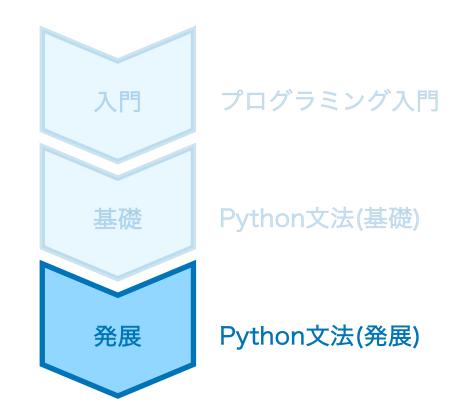
#### プログラム

- ▶ 条件分岐・ループ・関数を使うことで 任意の場所にジャンプすることができる
- ▶ 数値データ以外もサポートしている 「かなり便利な電卓」

```
# 1から5までの整数和
def f(x):
    return x + 1
s = 0
for i in [1, 2, 3, 4, 5]:
    d = f(i)
    s = s + d
if (s > 10):
    print("s > 10")
else:
    print("s <= 10")</pre>
```

# Python文法 発展

オブジェクト指向 クラス モジュール ライブラリ



#### オブジェクト指向プログラミング

オブジェクトを中心に設計するというプログラミングパラダイム

- プログラム中のデータは単なるデータではなく それに対するメソッドが定義されたオブジェクトである
- ▶ オブジェクトのデータに対する操作はメソッドを呼び出すことで間接的に行う (オブジェクトの外部から直接データを扱わない)
- ▶ Pythonはオブジェクト指向プログラミング言語である

#### オブジェクト指向プログラミング

#### Object-Oriented

```
In: lst = [1, 2, 3]
    lst.remove(1)
    lst
Out: [2, 3]
```

#### Data-Oriented

#### クラス

新しいデータ型を定義するための機能

▶ オブジェクトの設計図になる

```
In: class Counter:
        def init (self):
            self.cnt = 0
        def count(self):
            self.cnt = self.cnt + 1
        def get(self):
            return self.cnt
        def set(self, n):
            self.cnt = n
   x = Counter()
   x.count()
   x.count()
   x.get()
```

Out: 2

#### モジュール

#### プログラムを再利用可能にするための機能

- ▶ 大きなプログラムを複数の小さなプログラムに 分割して管理できる
- ▶ 他の人が開発したプログラムを簡単に利用できる

```
def f(x):
    return 2 * x

def g(x):
    return 3 * x
```

functions.py

```
import functions

f = functions.f(2)
g = functions.g(2)
h = f + g
h
```

#### ライブラリ

#### 再利用可能な形でまとめられたモジュール群

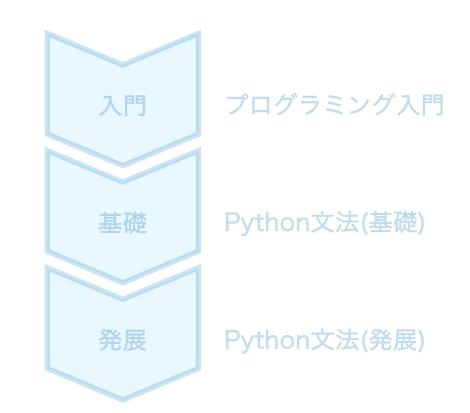
- ▶ Pythonはデータ分析・機械学習のために開発されているライブラリが多数ある
- ▶ 仕様を知るだけで便利な道具が使い放題になる!
- この講座では様々なライブラリの使い方を学習する (Numpy, Pandas, Matplotlib, Scikit-learn, .....)

# Python学習のキーワード

- ➤ 無名関数 (lambda式)
- map関数
- ▶ リスト内包表記
- ▶ 条件式 (三項演算子)
- ▶ イテレータ

#### まとめ

プログラミングとは なぜPythonを使うのか



#### まとめ

プログラミングは機械に自分のやりたいことを伝える作業である

- ▶ 「人間が理解できる言語」から「機械が理解できる言葉」へ
- ➤ Pythonの文法に従って記述する

Pythonではデータ分析・機械学習ライブラリが利用できる

- ▶ Pythonのモジュール機能によって実現されている
- この講座ではライブラリを使ってデータ分析を行う (それができるようになることを目指す)
- ➤ 次回はNumpyを学ぶ